のびのび若っ子

こうべを垂れる稲穂かな

校長　池田　千穂

朝晩の涼しさにすっかり秋の訪れを感じられるようになりました。このところ雨の日が多く、降水量は例年の２倍をすでに大きく超えているそうです。そのためか、若葉台の銀杏はまだ小粒ながらたくさん実を落としています。

校門前の通学路は、地面を埋め尽くすほどの銀杏で、子ども達が踏まないように歩くのに四苦八苦していました。見かねた地域の見守り隊の方が、子ども達が滑って転んではいけないと、登校前、毎朝のように掃いてくださっています。

秋は実りの季節です。若葉台小の米が今年も黄金色に色づきました。昨年度は「米々（こめこめ）」と名付けられましたが、今年はなんという米になるのでしょうか。連休中の雨で稲が倒れてしまったので、生産者である５年生がどのように知恵を出し合って収穫までつなげるのか、その姿も期待しています。

学校でも、子ども達の様々な実りが見られます。今日はキッズスポーツで長縄を跳んでいましたが、「跳べるようになった」と嬉しそうに報告してくれる子がいました。これから、WSC に向けて、それぞれの活動や練習が始まります。一人ひとりの実が育っていくことと思います。

稲を見ると、私は両親が付けてくれた「千穂」という名への思いを感じます。「たくさんの穂が実るように」という願いです。そして、稲穂は、青空に向かって真っすぐに育ち、実をつけるとその重みで頭を垂れます。実れば実るほど頭を垂れます。

「実るほど頭（こうべ）を垂れる稲穂かな」この言葉は、「稲は実が入るほど、その重みで自然に穂を垂れます。 人もまた、学びや経験を積み、人として成長するほど、相手を尊重したり、感謝したり、謙虚になったりするものです。」（※）とあります。私はこの言葉を、単に「謙虚でいなさい」と教えるものだと思っていました。しかし、年齢を重ね様々な経験をする中で、少し違う見方をするようになりました。人は学べば学ぶほど、自分の知らないことの多さに気付きます。経験を積めば積むほど、一人でできることの限界や、多くの人に支えられていることに気付きます。だからこそ、自然と頭が下がるのかもしれません。

「実り」は子ども一人ひとり違うと思います。それぞれが自分らしい実を育てています。子どもたちが、たくさんの力を身に付けて成長するとともに、人への感謝や思いやりの心を育んでいけるよう、本校教職員一同、教育活動に力を尽くしてまいります。今後とも、ご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。

※https://kotowaza-dictionary.jp/k0498/

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にする心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』